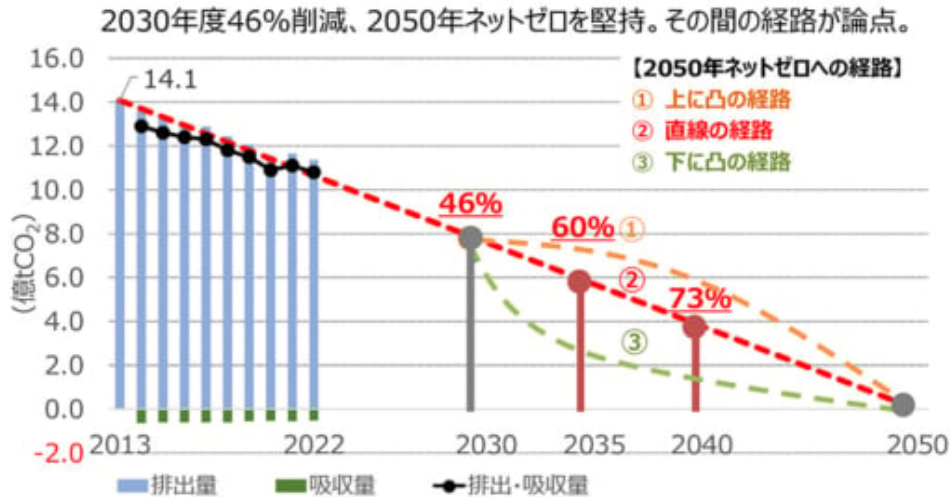




## 日本の排出削減の現状と次期NDC（Nationally Determined Contribution）水準



### NDCについての代表的な見解

① 上に凸の経路	<ul style="list-style-type: none"> <li>技術の革新が生まれ、排出削減が将来加速することを踏まえると、上に凸といった考えもある。</li> </ul>
② 直線の経路	<ul style="list-style-type: none"> <li>2050年ネットゼロと整合的な道筋を示し続けることが、企業・社会にとって予見可能性を高める。</li> </ul>
③ 下に凸の経路	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界平均以上の目標を掲げるという姿勢を示すことで、はじめて途上国が動く。</li> </ul>

2030年度から先の削減目標、削減経路については、多様なご意見があったところ、**2050年ネットゼロ実現に向けた我が国の明確な経路**を示し、排出削減と経済成長の同時実現に向けた予見可能性を高める観点から、**直線的な経路を軸に検討を進めること**でどうか。

3

2035??60??

??

## これまでの合同会合でいただいた次期目標に関する主なご意見

- **経済合理的に考えると上に凸の形**になり、過去を見ても同様の経路であったことも理解しながら、今後の2035年度や2040年度の目標を考える必要がある。
- 農業分野でも、最初はスロースタートでだんだんと**指数関数的に伸びていく形（削減経路）を取らざるをえない状況**。雇用を維持しながら国内の自給率を高める意味では、他の産業でも、農業と共通する部分がある。
- このままエネルギー多消費産業の衰退が進めば、経済と環境の好循環は達成されず、雇用も失われる。1.5℃目標への整合は目指しつつ、**ある程度柔軟性を持った排出削減目標を考える必要がある**。
- イノベーションによる排出削減効果が現れるまでに時間がかかることを踏まえ、**上に凸で将来急速に下がる合理的なパスか、2050年ネットゼロに向けて直線的な削減を目指すべきか**、G7の一員としての日本の**国際的な発信の在り方も考えながら検討**を深めるべき。
- 将来的にネットゼロにするだけでなく、**早期の排出削減の考え方**の下、**カーボン budgets の考え方を忘れず、海外への貢献も含めて検討**する必要がある。
- グローバルストックテイクで合意された、**2019年比2035年60%削減に沿って、次期NDCを考えていく必要**。野心的な数値目標は、企業にとってイノベーションのきっかけにもつながる。
- **2050年ネットゼロ、1.5度目標と整合的な道筋**を示し続けるということが、企業・社会にとって**予見可能性を高めること**につながる。
- 国際的な1.5℃目標や日本の2050年ネットゼロ目標に整合した意欲的な目標を掲げるべきであり、それを**ダウングレードするようなシグナルを社会に発するべきではないが、現実的な政策に知恵を出すことが必要**。
- 最終的に目指すべきゴールについて、**専門性を持った各セクターが共通認識を持って取り組むことが重要**。その最終ゴールから**バックキャストして高い目標を掲げることが重要**。

2

??

- 2050 CO2
- 
- 2050 CO2
- 
- CO2
- 
- CO2 0.006

2035 60 2025 10

?



This entry was posted on Thursday, December 5th, 2024 at 6:50 am and is filed under ,

You can follow any responses to this entry through the [Comments \(RSS\)](#) feed. Both comments and pings are currently closed.